

# 人口から見た 都市計画研究の課題

島根大学法文学部  
廣嶋清志

# 少子化と都市環境

- 人口から見た最近の都市環境
- 少子化と都市環境の分析

# 少子化の要因

- 家族の再生産が各人に必須条件でなくなりつつある。(結婚・子育てが生活様式化,個人主義化)
- 家族の新旧機能の並存 新しい家族への障害
- 結婚・子育てをめぐる状況の激変  
(多様な消費生活,自己実現)  
(子育てのために必要な教育費,住宅条件,保育施設,都市的環境条件,育児時間の保証[企業における労働時間制限])

# 人口から見た最近の都市環境

## 東京都区・市別人口流動の変化と住環境

# 図1 青年人口および中年人口の変動(東京都区・市別)

図1 青年人口および中年人口の変動(1990年東京都区・市別)

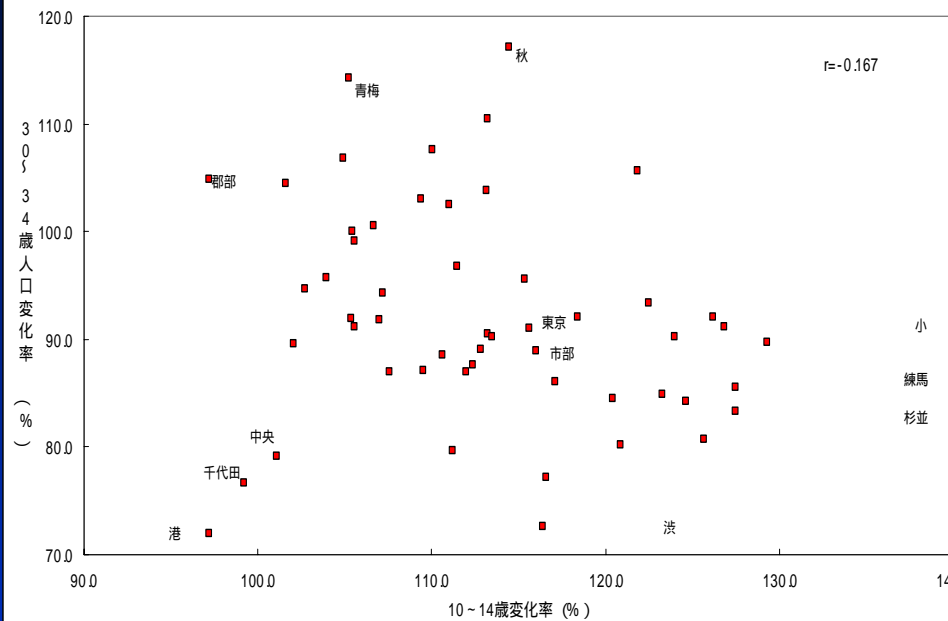
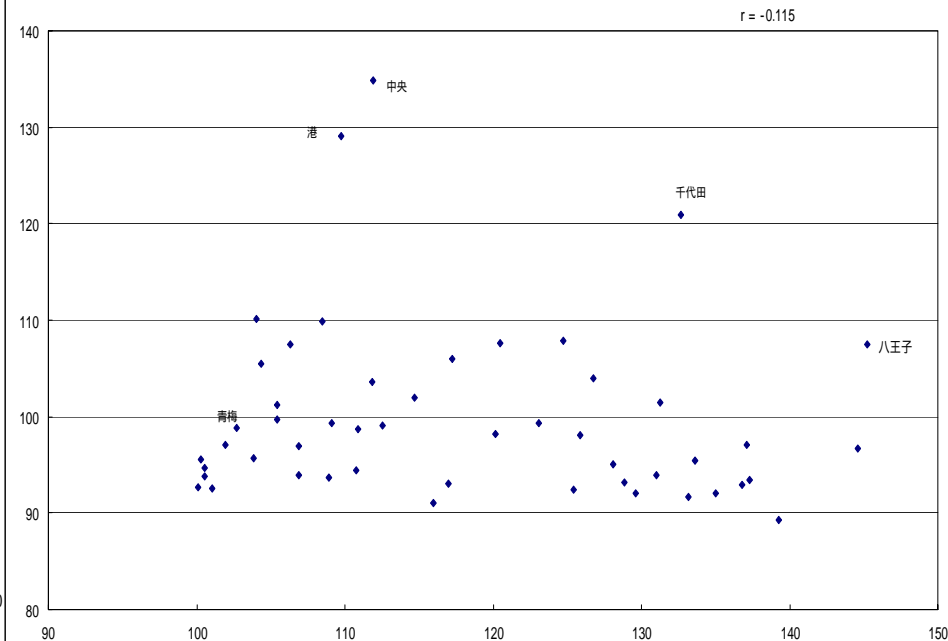


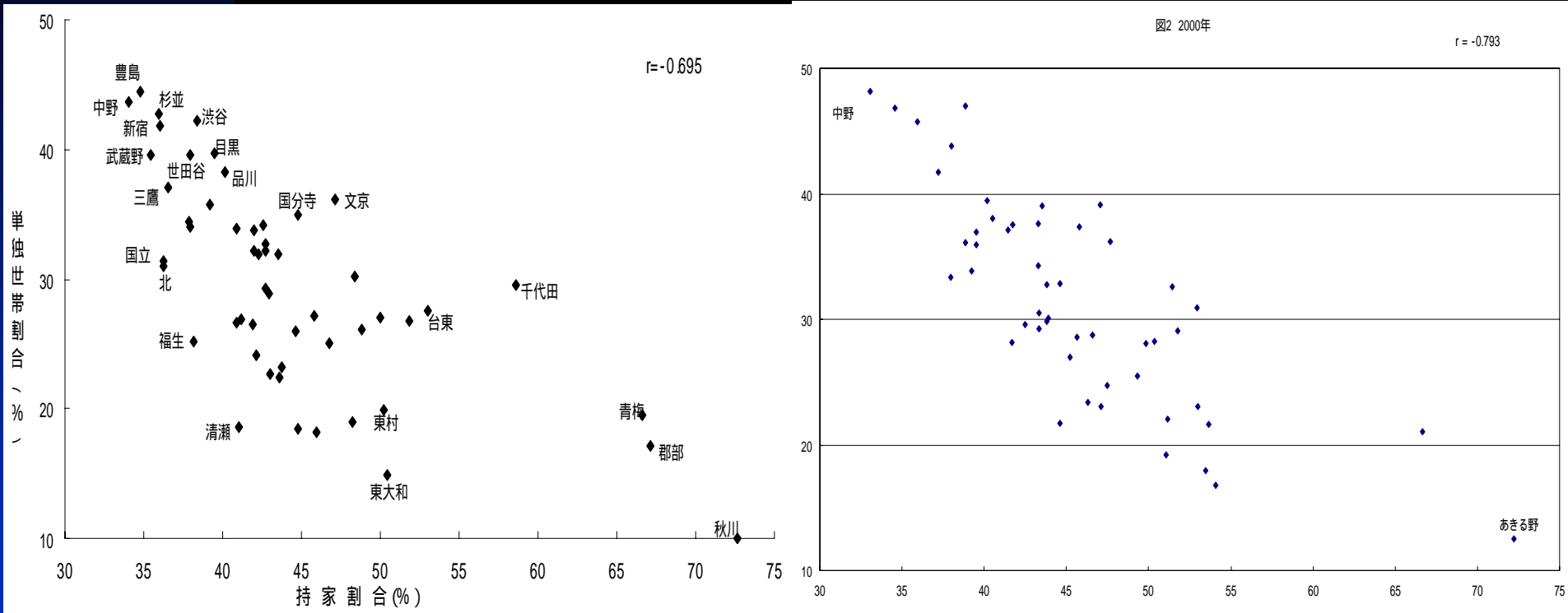
図1 2000年



- 30-34歳変化率 =  $t$ 年35-39歳人口 /  $t-5$ 年30-34歳人口
- 10-14歳変化率 =  $t$ 年15-19歳人口 /  $t-5$ 年10-14歳人口

2004/8/18

# 図2 持家割合と単独世帯割合



- 単独世帯割合：65歳未満者の単独世帯数が一般世帯総数に占める割合
- 持家割合：持家に住む一般世帯の「住宅に住む一般世帯」に占める割合

# 図3 中年人口の変動と20歳代人口割合

図3 中年人口の変動と20歳代人口割合 (1990)

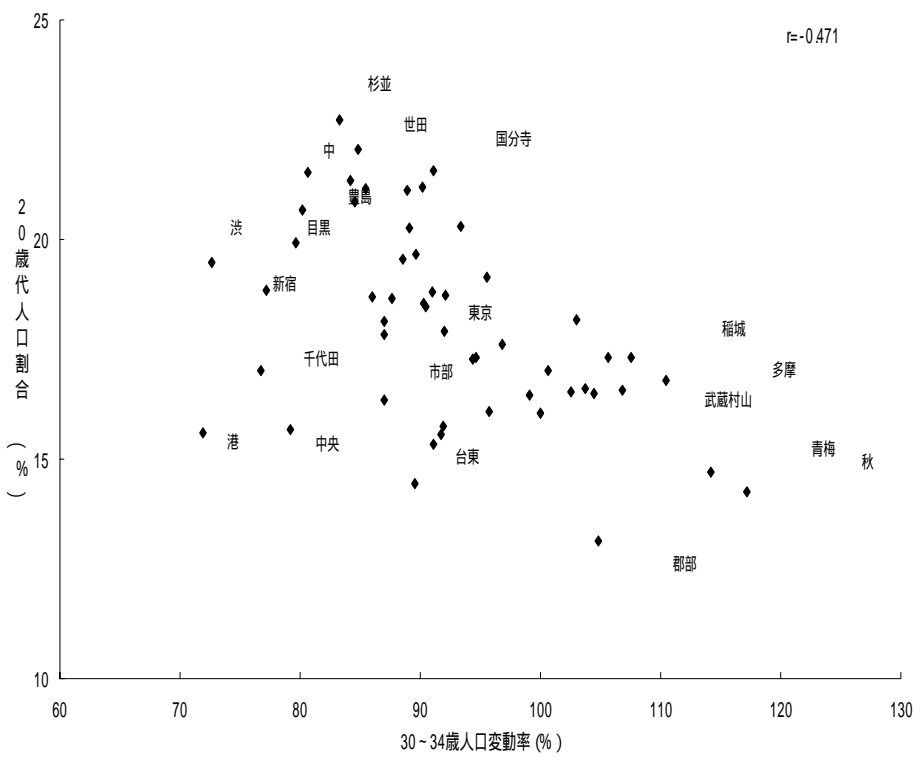
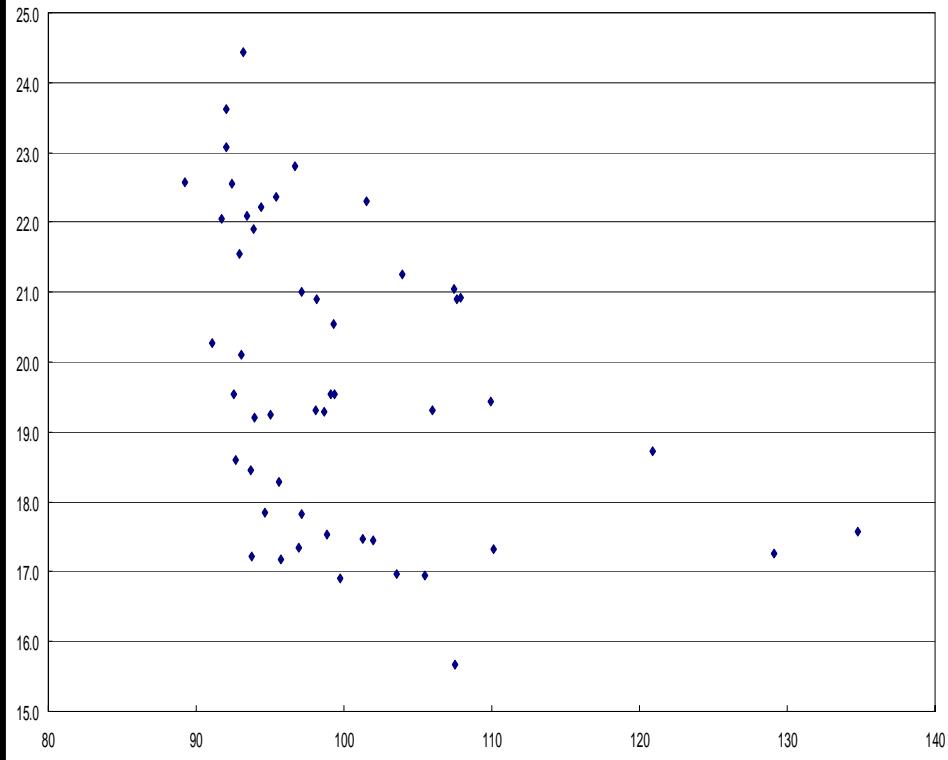


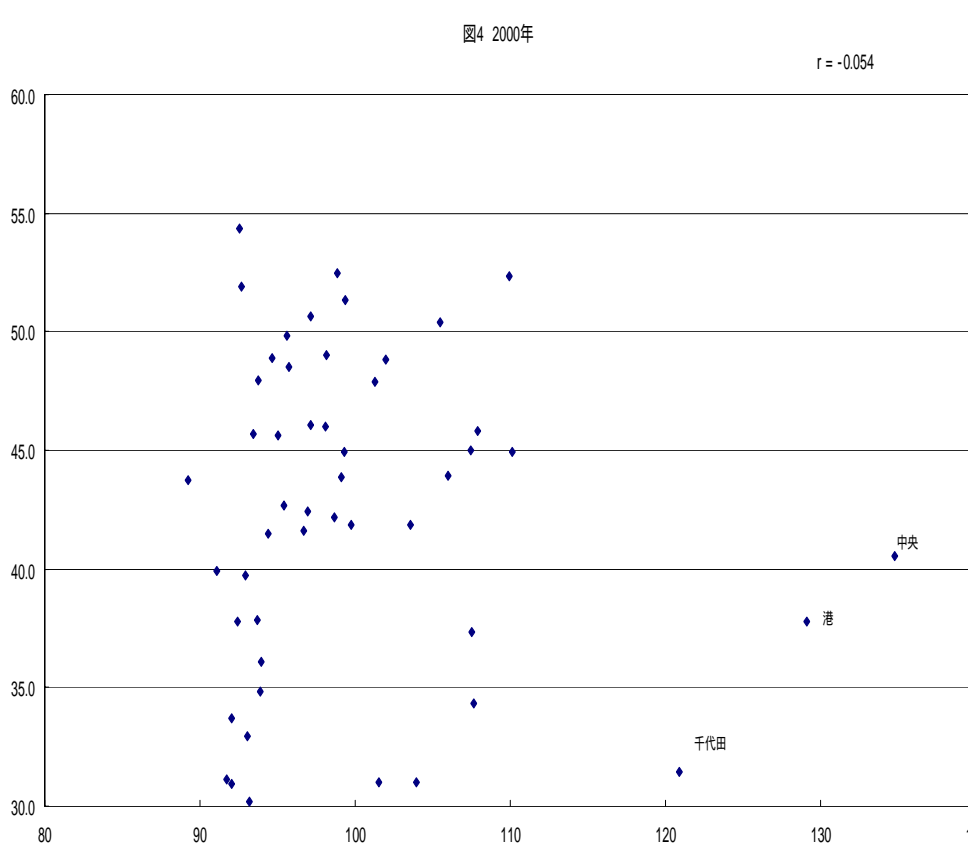
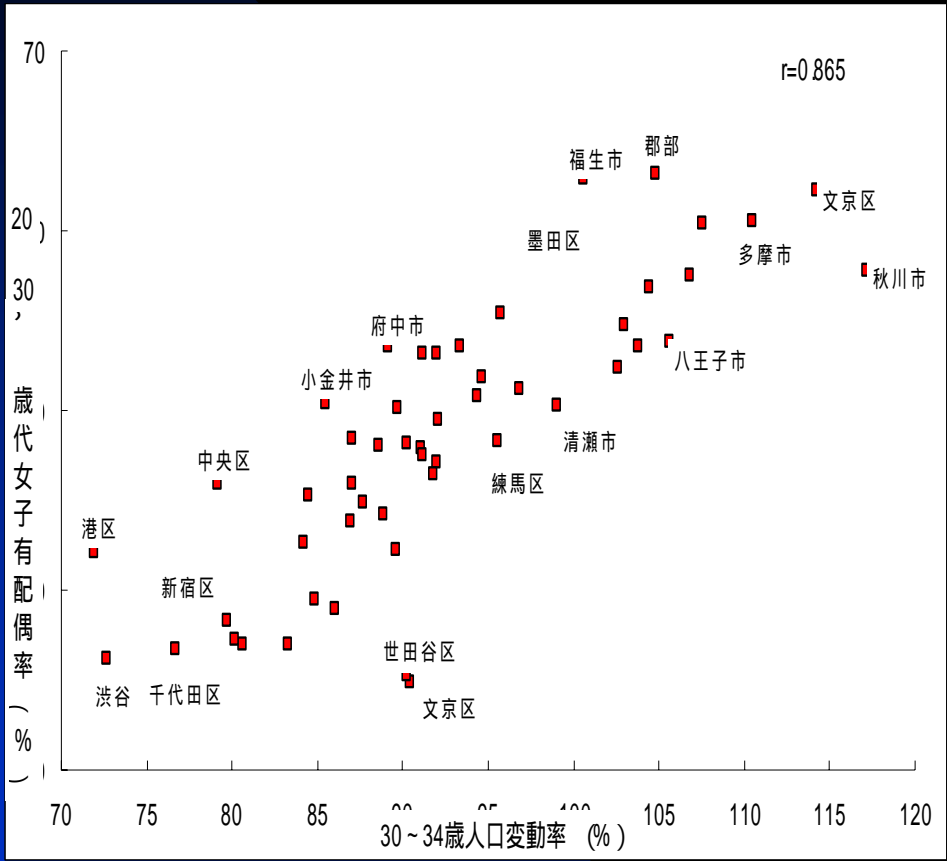
図3 2000年

$r = -0.403$



■ 20歳代人口割合: 20歳代人口 / 総人口

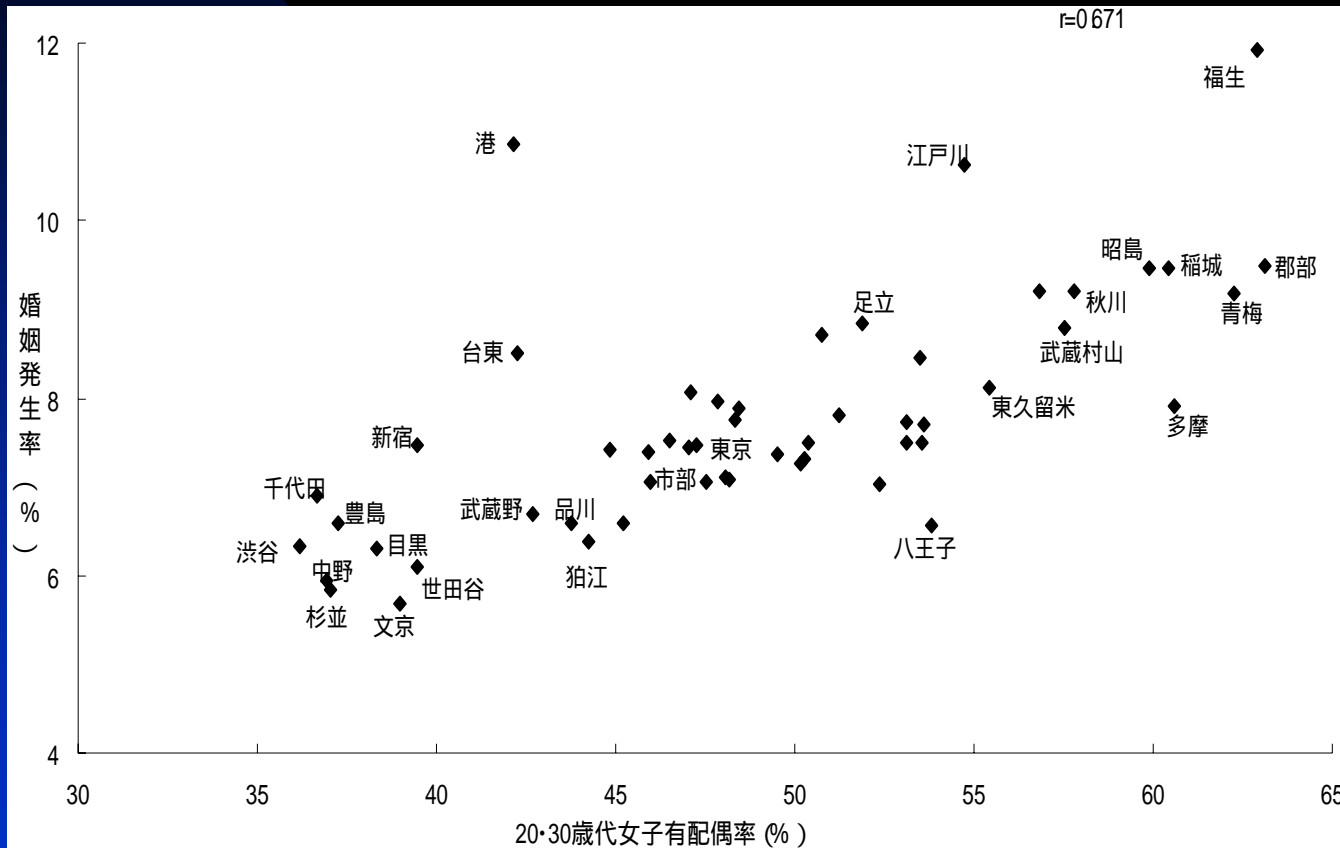
# 図4 中年人口変動と女子有配偶率



■ 20・30歳代女子有配偶率：20-39歳有配偶女子人口/ 20-39歳女子人口



# 図5 20・30歳代女子有配偶率と婚姻発生率 (1990年 東京都区・市別)



- 20・30歳代女子有配偶率：20-39歳有配偶女子人口/ 20-39歳女子人口

# 図6 中年人口変動と年次別夫婦出生率

図7 中年人口変動と年次別夫婦出生率 (1990年 東京都区・市別)

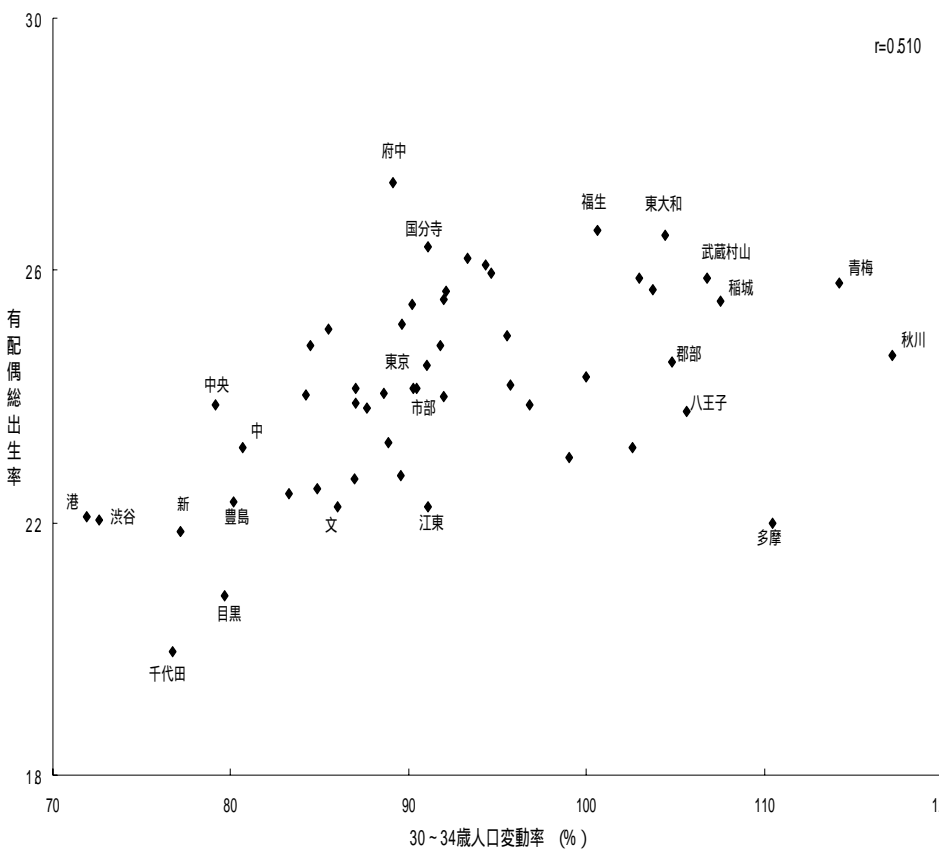
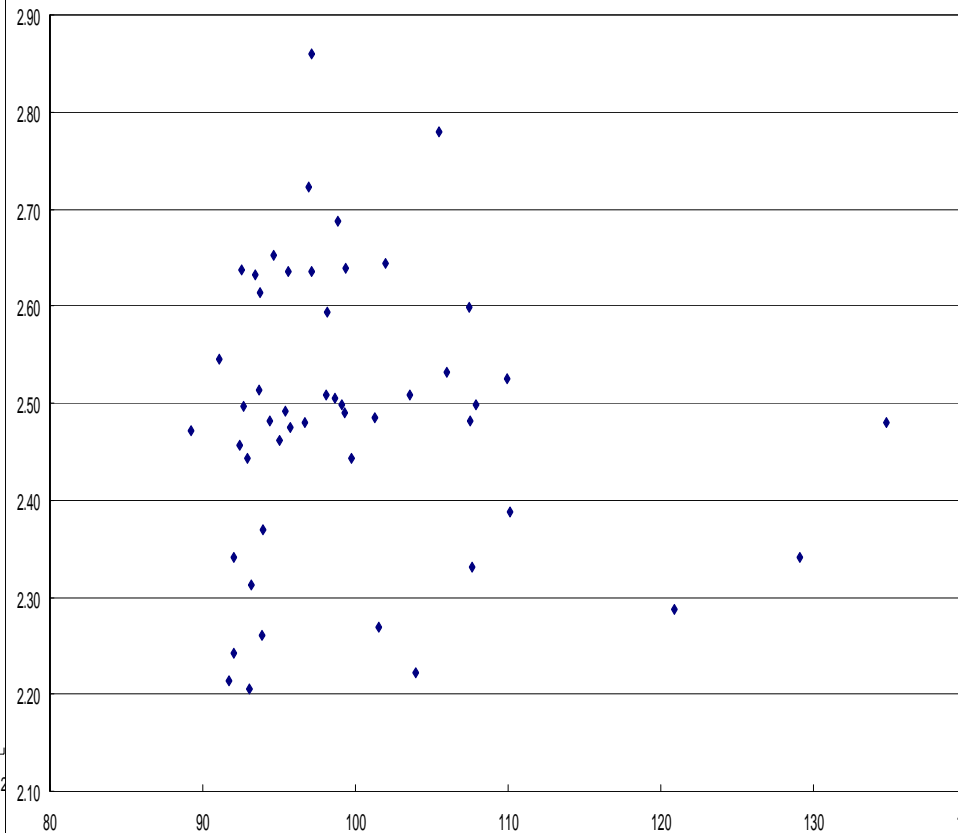


図6 2000年

$r = -0.078$



■ 年次別夫婦出生率：0歳人口 / 20-39歳有配偶女子人口

# 図7 中年人口変動と夫婦当たり子供数

図8 中年人口変動と夫婦当たり子供数 (1990年 東京都区・市別)

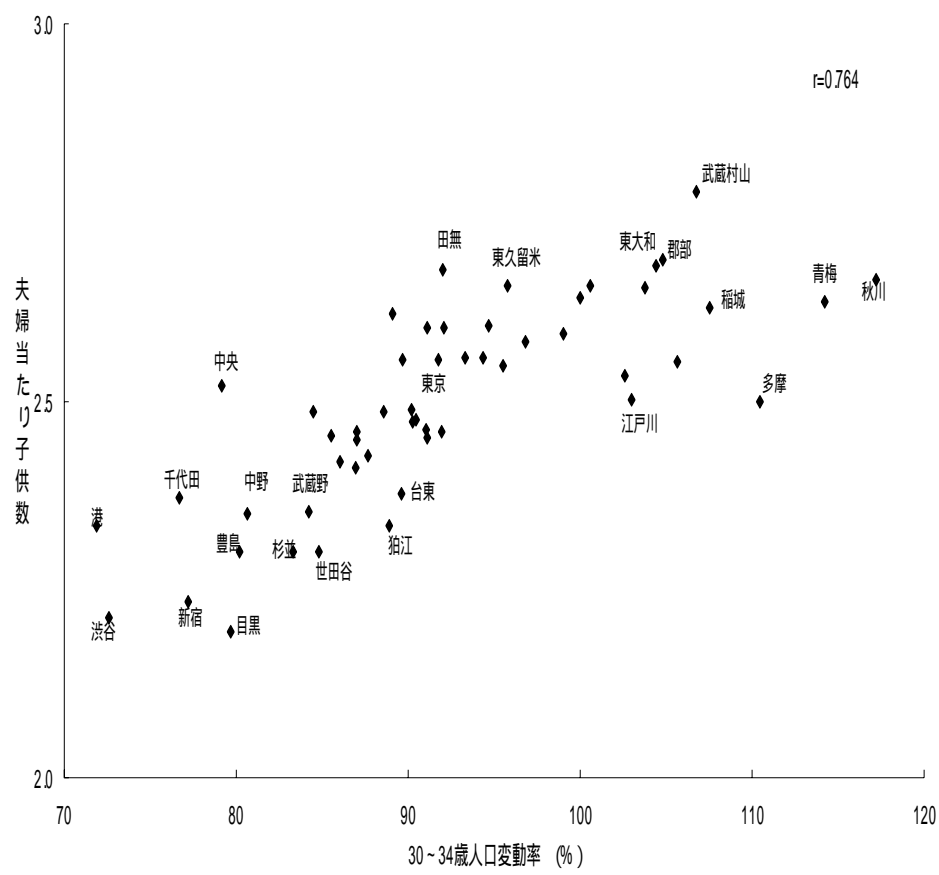
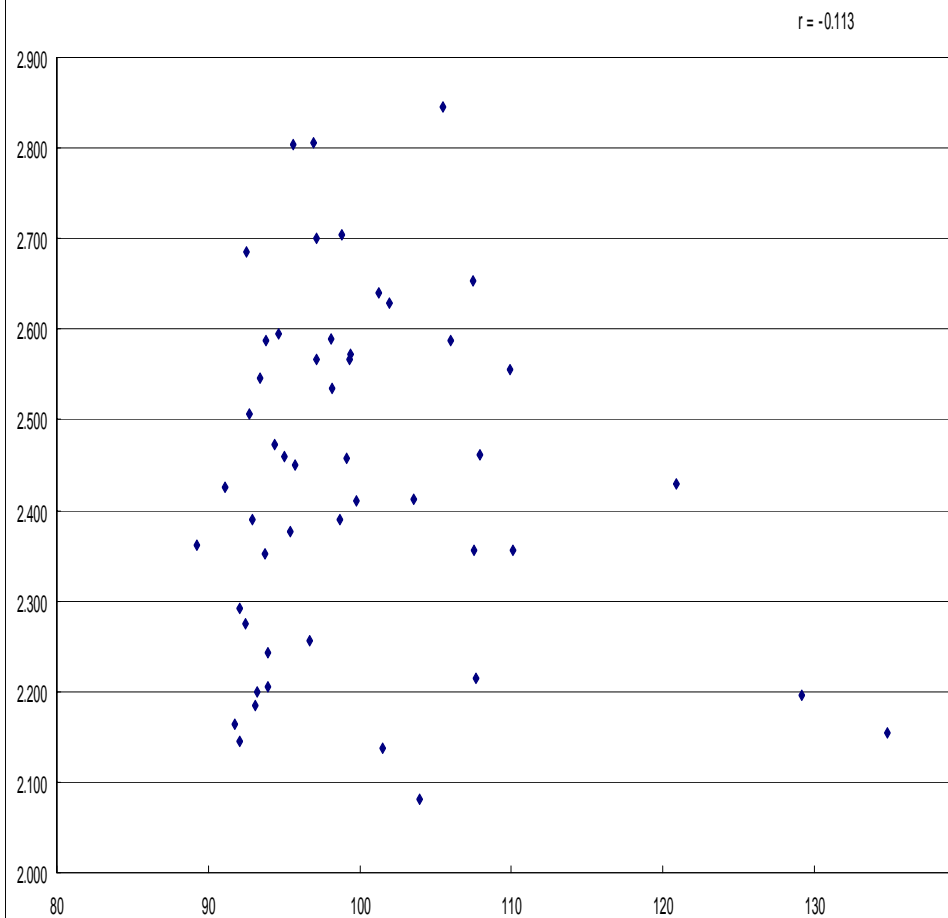


図7 2000年



■ 夫婦当たり子供数：0-4歳人口 / 20-39歳有配偶女子人口  
2004/8/18

# 図8 人工死産率と夫婦当たり子供数

図9 人工死産率と夫婦当たり子供数 (1990年 東京都区・市別)

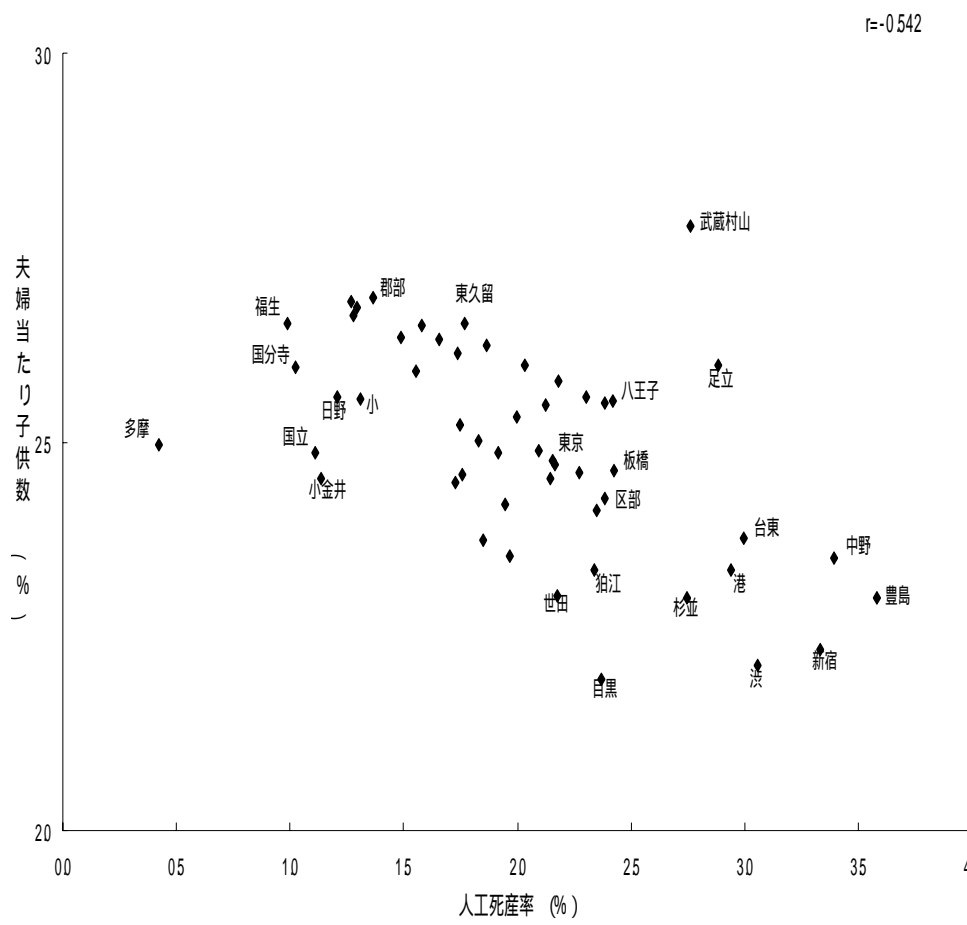
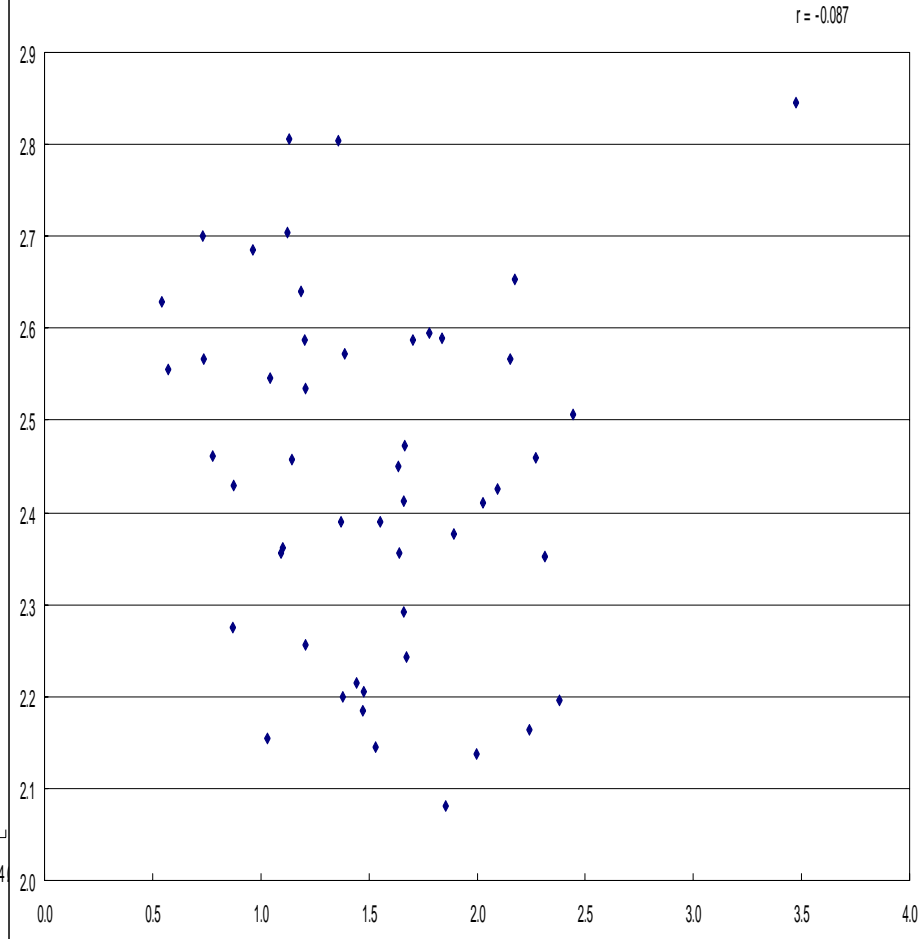


図8 2000年



- 夫婦当たり子供数：0-4歳人口 / 20-39歳有配偶女子人口
- 人工死産率：人工死産数 / 出生数

# 図9 持家割合と夫婦当たり子供数

図 持家割合と夫婦当たり子供数 (1990年 東京都区・市別)

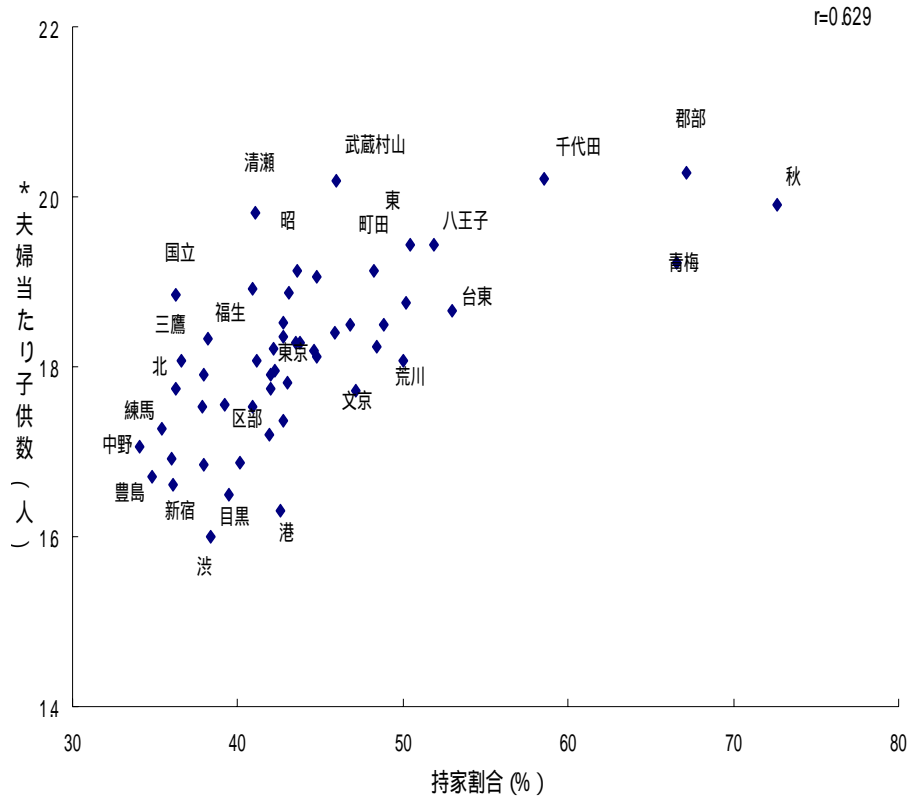
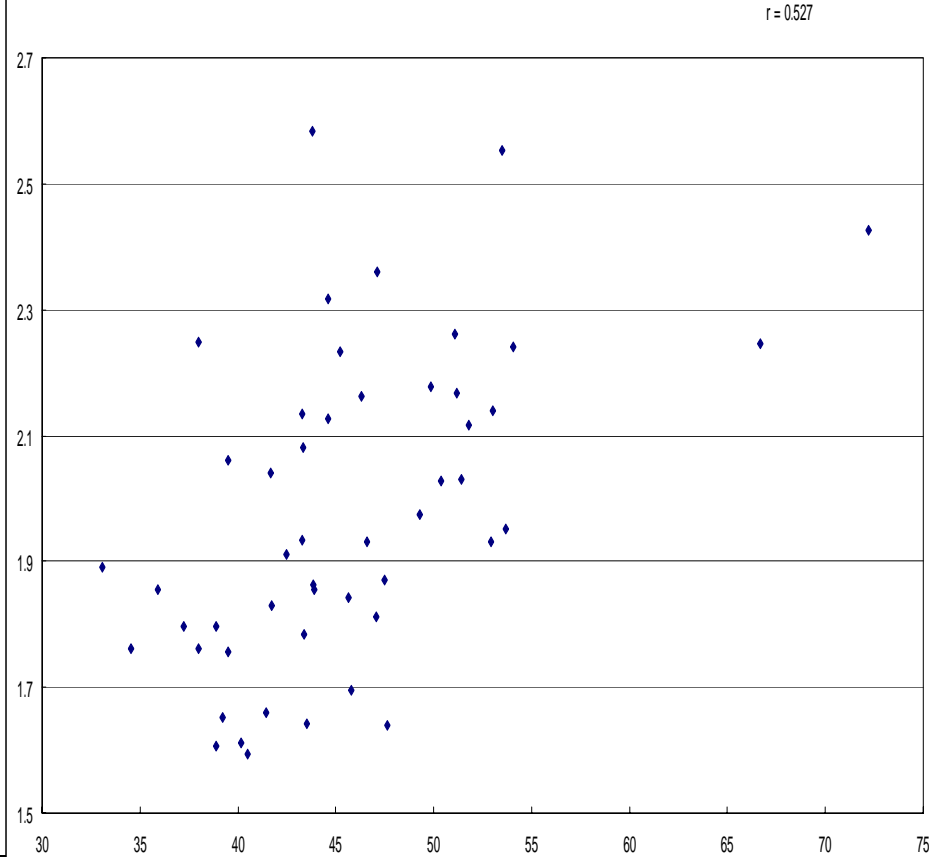


図9 2000年

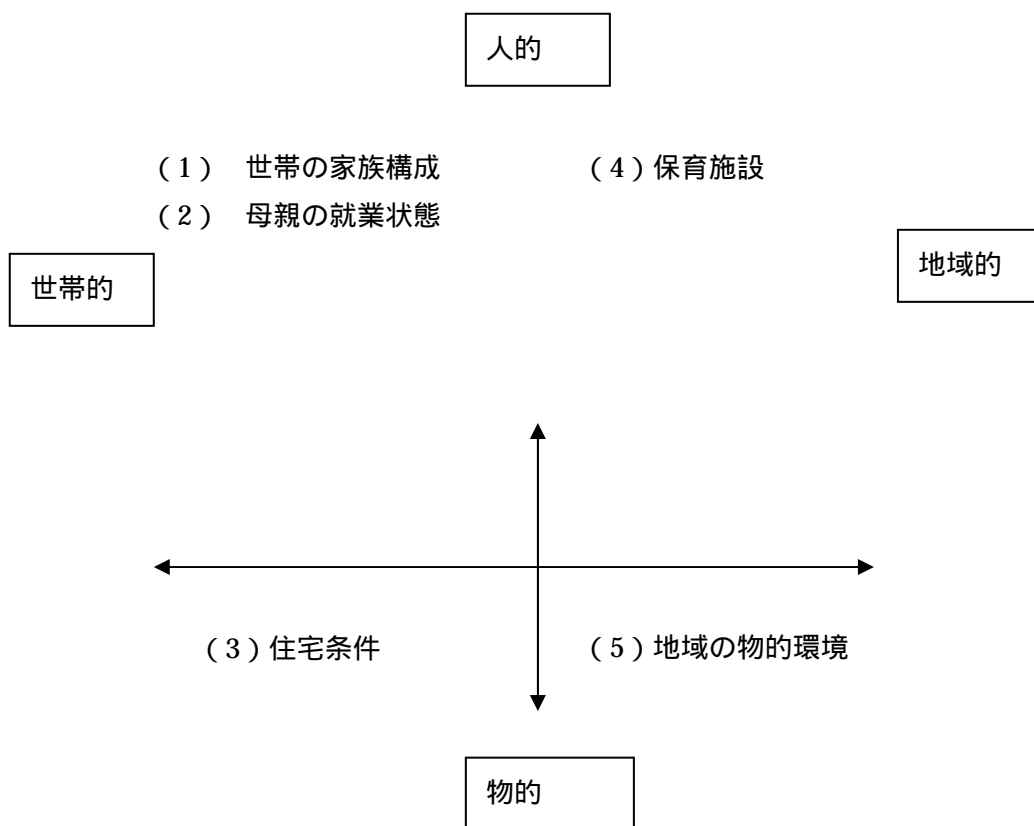


- 夫婦当たり子供数：0-4歳人口 / 20-39歳有配偶女子人口

# 人口から見た東京都の都市環境

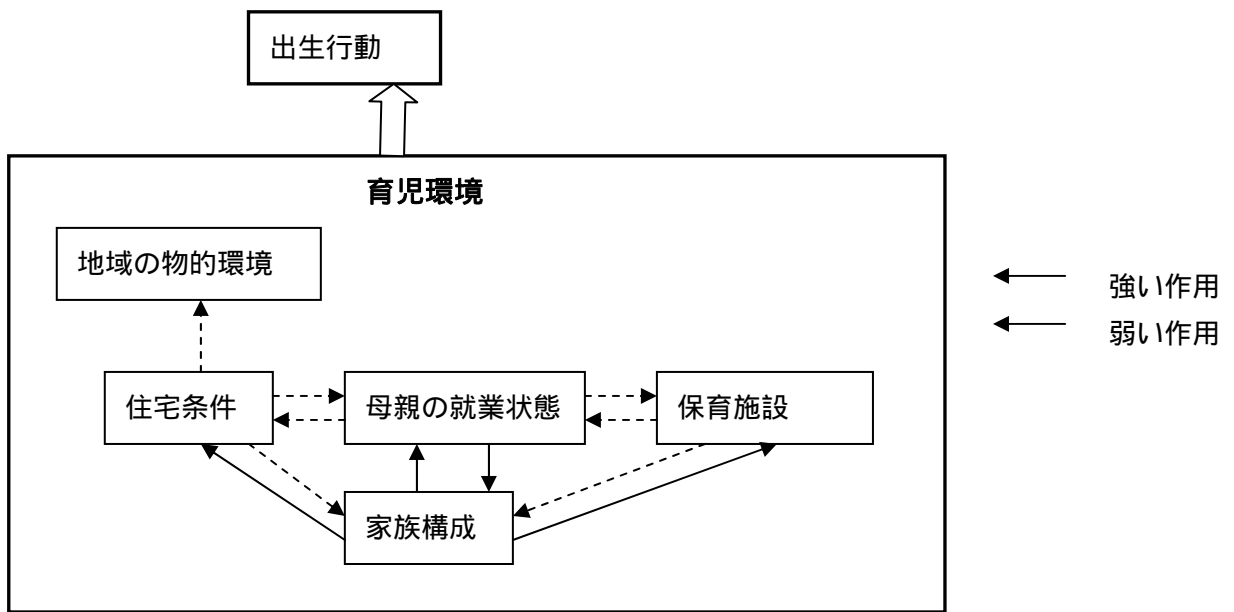
- 持家割合のような住宅ストックの基本構造の変化は小さいが、新規住宅供給、したがって、結婚、出生などのフローの発生する場は大きく変化している。
- このことは、子どもが生まれ、育てられる環境は、以前より、高密環境へシフトしたものと考えられる。したがって、出生行動にいっそうの負の影響をもつと考えられる。

図1 育児環境（保育環境）の構造



廣嶋，1981「現代日本の育児環境と出生力」『人口問題研究』158号，11-45.

図2 育児環境の構成要素間の相互作用



廣嶋，1981